

村上アカネ（兵庫県神戸市）

タイトル「若葉」

家庭科室のテレビの中から、感動はやってきました。

その日は、幼児教育の授業でビデオを見ることになっていました。映画は古い物でしたが、感動は鮮明に伝わってきました。

ビデオの中のお母さんが妊娠しています。段々とお腹の中の子が大きくなって、お産が近づいてきます。陣痛がやってきて、お母さんが苦しんでいます。分娩台に横たわりました。力んでいます。羊膜が体にこびりついた、小さな真っ赤な生き物が生まれてきました。その瞬間に、「んぎゃー。」と泣きました。そして、万歳をしていたのです。手を伸ばし、足を伸ばし、泣きながら、叫びながら全身で万歳をしていたのです。

この映像はたったの五分程度、それでも、みんなが息をのみ、私は泣いていました。

どこのお母さんが、いつ産んだのかも解らない、知らない人の出産。でも、その瞬間を心から喜べる。おめでとう、生まれてきてよかったね。みんな、あなたを持っていたよ。

「人生」が始まる瞬間を見ることができました。愛おしくて涙が溢れてきました。そして、自分が生まれてきたことを考えました。自分がこれから産む子どものことも考えました。今も忘れない、あの瞬間のあの感動を、自分がいつか体験すると思うと、また涙がでてきました。

ふと母のことを考えました。泣いたり感動したりできるのも、母が産んでくれたからです。母も私と同じように、産まれる時を楽しみに待ち、私の誕生を喜んだのでしょう。

将来私は就職し、仕事をこなし、たくさんの人と出会い、そして、たくさんのお苦しみに会うかもしれない。けれど、この瞬間を思い出し、生命（命）を大切に、毎日を大切に生きていこう。

その日、私は家でアルバムを見ました。幼い頃の私は、父に抱かれ、頬が弾けそうに笑い、家族みんなに囲まれていました。

私は、また、泣いていました。